アジアにつながる文化の輪！

テキストをもとに実験的ダンスを作る 山田うん in マレーシア国立芸術文化遺産大学

2015.03.25

2 ツイート 0 いいね！ G+1

マレーシアはクアラルンプールの大学で行われた、ダンスの教育交流の授業におじゃましてきました。

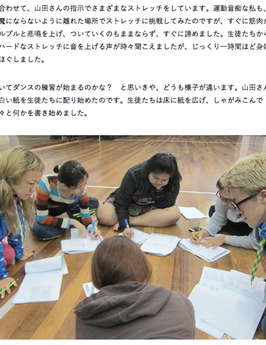
場所はクアラルンプール中心地にほど近いASWARA マレーシア国立芸術文化遺産大学。今回、日本からダンサー・振付家である山田うんさんを招き、3週間にわたって授業が行われました。

山田さんの指導を受けるのはダンス科と演劇科の学生約30名。月曜日から金曜日の9時から13時までぶっしりと授業が行われます。

うんさんの話を聞く生徒達

私がおじゃました時は、授業冒頭のストレッチの最中でした。軽快なJ-Popミュージックに合わせて、山田さんの指示ですきまがないストレッチをしています。運動音痴な私も、邪魔にならないように離れた場所でストレッチに挑戦してみたのですが、すぐに筋肉がブルブルと悲鳴を上げ、ついていくのもまならない。すぐに諦めました。生徒たちからもハードなストレッチに音を上げる声が時々聞こえましたが、じっくり一時間ほど身体をほぐしました。

続いてダンスの練習が始まるのかな？　と思いきや、どうも様子が違います。山田さんが白い紙を生徒たちに配り始めたのです。生徒たちは床に紙を広げ、しゃがみこんで熱々と何かを書き始めました。



踊らずに熱々と書いています

この関に、山田さんに今回の授業について話を聞きました。
「今、生徒たちが書いているのは「あなたにとって言葉とは何か？」という課題です。今回の授業では、『Dictée』（ディクテ）という言葉をもとにダンスを作っています。『Dictée』には、多文化主義における母語がテーマの一つとして掲かれています。マレーシアはマレーや中国、インド等が入り交じる多文化の国ですが、文化や宗教の異なる民族が共存するために、お互いを批判し合うのを避けることがあるといいます。その影響なのか、学生たちも互いを批評するよりも、なんとなくなあなあで過ごしているところがあるように感じます。

実は 以前、学生たちのダンスをこの学校で観る機会があったのですが、その時に抱いた印象が、学生たちにはアイデアもある、身体も動く、なのに世界観（スケール）が小さい、ということでした。その可能性を広げるにはダンスだけではなく「自分は何を創造し、観客に何を想像してもらうのか」という問題意識をもつことが必要です。

今回の授業では、生徒たちが「Dictée」のテキストを使い、考え、踊ることができるようになるのが目標です。授業を始めて一週間ほど経過したところですが、生徒たちに教えれば教えるほど面白い答えが返ってくるのを実感しているところです。」

話を聞いているうちに生徒たちの課題ができ上がってきたので、発表に移ります。皆で輪になり、一人ずつ順番に自分の考える「言葉」について発表していきます。ある生徒は自分の名前を通して、またある生徒は外国語を通して、他にも人とのコミュニケーションや文学作品、映画などを通してそれぞれの考える「言葉」を語りました。一人が発表すると山田さんや他の生徒との関で活発な議論が行われ、山田さんと生徒の関に既に信頼関係ができているのが分かりました。

徐々に作品が出来上がっています

授業に参加している、演劇科の生徒の一人に話を聞いてみると、「取り組む作品について、自分の頭でじっくり考えるという授業自体が初めてです。、山田さんという学外のアーティストの先生からダンスを教わることで、『こんな風に作品を作り上げていくのか』と大いに刺激を受けることができ、充実した時間です」と、興奮した面持ちで語ってくれました。

このような生徒たちの様子を静かに見守っていたのが、演劇学科講師の黄愛明（ウォン・オイミン）先生です。今回、山田さんを特別授業に招くために、関係各所に熱心に働きかけを行いました。

ウォン・オイミン先生

ウォン先生によると、「2年前、ダンス学部長のJoseph Gonzales教授が、学内のダンスフェスティバルのゲストに山田さんをお迎えしたことがありました。その際に私も初めて山田さんのダンスを観て、ぜひこの大学で授業をしてほしいと思ったのです。
山田さんのダンスは、ダンスというよりも「身体表現」だと感じたので、ダンス科だけでなく演劇科の生徒たちにとっても学ぶところが多いだろうと考えました。今回はダンス科と演劇科、両方の生徒が対象の実験的な授業を実施しました。これも学内では初めての試みです。」

取材を通して最も印象に残ったのは、言葉や文化の違いを超えて一つのものを作り上げようとする、生徒たちの熱意でした。授業では英語、マレー語、中国語、日本語が飛び交い、山田さんを通じて知る新しい世界を堪能し、自分のものにしようと取り組む姿は真剣そのものです。彼らが大学の課程を修了した後にどのようなアーティストに成長していくのかが今から楽しみです。

企画名称	Un Yamada Artist Residency at Aswara
日時	2014年12月1日（月）～12月21日（日）
会場	ASWARA マレーシア国立芸術文化遺産大学
主催	ASWARA マレーシア国立芸術文化遺産大学
共催	国際交流基金アジアセンター
URL	http://www.jfkl.org.my/events/un-yamada-aswara/

中村綾花：フランス・パリを拠点に活動するフリーライター。著書は、世界で婚活の旅をしながら恋愛・結婚事情をレポートした「世界婚活」（朝日出版）、有料コンテンツ・サイト「cakes」にてパリの本当の日常をレポートする「すっぽんぽんパリ」連載中。https://cakes.mu/series/3055

2 ツイート 0 いいね！ G+1